

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0873100929		
法人名	有限会社大樹		
事業所名	グループホーム大樹 1号館		
所在地	茨城県東茨城郡茨城町越安1993		
自己評価作成日	2022年12月7日	評価結果市町村受理日	2023年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=0873100929-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=0873100929-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年1月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然豊かな環境の中でその人らしさを大切にできているかと、職員間で日常的に話し合い、入居者様本意のケアに努めている。</li> <li>・代表者が無農薬野菜や米等を栽培し、季節の食材を食卓に提供し食の安全にも努めている。</li> <li>・庭には様々な木々を植え、果物を収穫したり、畑では野菜を育てたり、季節を感じられる様取り組んでいる。</li> <li>・ご家族とはオンライン面会や電話などで交流しています。</li> <li>・個室は全室南向きになっていて日当たりは良く、真冬でも日中は暖かく過ごしやすい環境である。</li> <li>・日中は鍵を掛けずに自由に出入りできるように見守りながら支援している。</li> <li>・健康管理では訪問看護師が入居者の健康状態の把握のため週1回訪問してくれている</li> <li>・ターミナルケアにも取り組み入居者様、御家族が最期まで安心して暮らせるよう努めている。</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>コロナ禍ではあるが、地域の方とあいさつを交わし、花や野菜を届けてくれる方がいたり、入居前から利用していた床屋さんが出張してくれたり、地域密着型を地で行くグループホームである。職員は理念をよく理解して、利用者の思いに沿った生活が送れるよう個人を尊重して支援に当たっている。管理者は職員の意見や要望をよく聞いて対応し、働きやすい職場づくりがされている。利用者や家族等は最期までホームでの生活を望む方が多く、職員は医師、訪問看護師と連携して看取り介護を行っており、家族等の安心につながっている。</p> <p>* 新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ul>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くない</li> </ul>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護をして行く上で理念を基本とした介護が最も大切であり理念にあわない対応があった場合は職員間で注意し、理念を再確認した上で取り組んでいる	職員の目にふれるように食堂、事務室に理念を掲示しており、理念に沿った支援ができています。職員からも、毎日事務室に荷物を置きながら理念を確認し、利用者が地域に密着した生活ができるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者は地区内に住み、地域の行事に参加をし、また事業所周辺は地域の方の花や野菜畑が多く、日常的に顔を合わせる事も多く、散歩の際などは挨拶を交わしたり花や野菜など頂いたり顔見知りの関係にある	自治会に加入し、代表宅に届く回覧板で地域の情報を確認している。散歩等で畑作業をしている方とあいさつしたり、地域の方が花や野菜を届けてくれる。以前は利用者が犬の散歩をしている方と立ち話をしたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時には地域の方からの介護に対する疑問や質問を受けている 地域での独居高齢者の状況を把握し、緊急時には対応できるよう務めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回実施 コロナ禍のため開催は職員のみで実施、報告をしている	コロナ禍で、職員のみで開催し、利用者の現状などを話し合い、議事録を委員に送付している。今後は、全家族等に議事録を送付し、意見を出しやすい方法等を検討していきたい、と考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者の手続きや事業推進にあたり、町の担当者に相談、助言を受けている 福祉相談センターや地域包括支援センターとの連携も取っている	町の担当課である福祉課とは、介護保険の更新事務等で出かけたりし、良好な関係が構築できている。コロナのクラスター発生時には、援助物品が届けられた。生活保護受給の入居者には、福祉相談センターと連携した支援を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は行わない」また身体拘束ゼロを目指し全ての職員が認識し介護にあたっている 身体拘束適正委員会を設置し勉強会を行っている なお玄関に身体拘束排除宣言書を作成し表示している また日中は玄関等にも鍵を掛ける事はせず見守りしながら、当たり前の自由な暮らしが出来るよう支援している	身体拘束適正化委員会は3月毎に行い、議事録を作成している。拘束に関するマニュアル、様式等は整備されているが、現在拘束を必要とする入居者はいない。テキストを用意して勉強会を行っており、職員は「してはならないこと」を認識して支援に当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のポスターを掲示して、全職員が理解し、意識を高め虐待が見過ごされないようつとめている 研修や勉強会にて常に意識を持ちながら虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度では関係機関との連絡、調整を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明し事業所で出来る事を明確に説明する ご家族からの疑問点を引き出し急変時または重度化について説明し同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の不満や苦情等は日頃から対話を重ね聞き出せるよう努めている またご家族にも苦情、要望等が気軽に出せるよう意見箱を設置している	コロナ禍でオンライン面会を基本としているが、利用料金支払時など玄関先での短時間面会も支援している。イベント時には、写真付きで利用者の様子を知らせており、アプリで配信する動画は特に喜ばれている。コロナクラスター収束時の報告に対して、労いと感謝の言葉とともに雑貨の差し入れがあった。現在、家族等からの不満や苦情はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを取り、日々の業務の中でも職員の提案を聞く時間を設けている	月1回の全体会議や日々の申し送り、リアルタイムでの話し合いなどを行っている。感染症に対して不安に感じている職員に対し、管理者は不安を軽減できるように声かけをしている。職員からのスライディングシートの提案があり、購入したところ、職員の負担が軽減できた。職員からも、意見や要望にはすぐ対応されること、急な休みにも柔軟に対応されていることを聞くことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に入り職員一人ひとりの日々の努力を把握しており資格取得の支援に努めている 子育て期間中の職員には、土日、祝日、行事等休暇が取れるよう配慮している 各職員も希望休暇が取りやすい環境となっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の向上心や力量を把握し、研修の機会を作ったり、内部研修にて個人のケアの質を上げるよう努めている 外部研修に参加した職員は得た知識、情報を他職員と共有できるよう研修記録の作成を行い、職員間の共有に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の介護支援専門員協会に所属し他事業所、行政と情報交換の場となっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今現在何が不安なのかご本人の思いと希望を真剣に受け止め、安心して日常生活を送れるよう個別にコミュニケーションを図り、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立ち求めているものの理解に努め、ご家族の思いを受け止める努力をし、事業所としてどのような対応が出来るか話し合っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所として本人やご家族の思い、状況等を確認し出来る限りの対応に努めている また出来ない事は事業所だけで抱え込まず必要に応じて他のサービス機関につなげ早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は人生の先輩でもあり日常生活の中で学ぶことも多々ある中で、洗濯物を干したり、洗濯たたみ、食事の準備、片付けなど共に支え合う信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の最近の様子や健康状態はお便りや電話などで報告している ご利用者とご家族の関係を継続していくために、ご家族にも支援の協力について、相談している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に相談し、外出や受診など協力をいただいている 電話や手紙、オンライン面会などで支援している	親戚の方が面会に来たり、年賀状が届くなど関係継続している。数年前は職員が支援して年賀状を出したことがある。日配品の配達を継続する方や、新聞を購読している方には部屋に届けている。10年位前からの訪問美容を利用したり、行きつけだった床屋さんが途切れずに出張してくれることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置を工夫したり、ソファーに職員も座りコミュニケーションを図りながら、お互いが支えあえるよう支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても利用者のその後の経過などを聞いたり、相談にも応じ関係性を断ち切ることなく大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの人格を尊重し、普段の会話や表情から現状を把握して援助が出来るよう努めている 意思表示が困難な方は職員が問いかけをしたり、昔の情報をもとに対応している	個人の性格や人柄を理解し、無理な誘いをせず、気の向くままに生活ができるような支援を行っている。コミュニケーションの取りにくい方には、手を触ったり、スキンシップを図って、表情や反応を確かめて、その様子を記録やリアルタイムに職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴等をご本人、ご家族より聞き、職員が把握し本人のこれまでの馴染みの暮らし方が継続出来るよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来る事出来ないことを把握し細かい点に配慮しながら、その時のご利用者の状態や気持ちを理解して支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者がその人らしく暮らせるようご本人や、ご家族の要望と医療関係者の意見を踏まえ、介護計画作成にあたっている また実現可能な計画になるよう担当者会議でモニタリングや課題となる項目を話し合っている	計画作成者が利用者や家族等、職員からの情報でアセスメントし、ケアプランを作成している。家族等に手渡しや郵送で確認してもらっている。三ヶ月ごとにモニタリングし、半年ごとに次の計画を作成している。職員は、支援を行うときや記録のときには、必要に応じてケアプランを確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の利用者の訴えや暮らしぶりを個別に記録し、食事量・水分・排泄状況をチェックし全職員が把握できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナ禍にあり、自由に出掛けられない環境にありますが、それぞれの状況や希望に出来る限り対応させて頂いている 少しずつではあるが、ご家族と外出し、団らんの時間を作っているご利用者もいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や消防署、福祉施設等との連携を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を大切に、ご利用者やご家族等の希望するかかりつけ医への受診を支援している ご家族の付き添いで受診しているご利用者もいる また月1回協力医療機関の医師による往診がある	利用者は協力医療機関の往診や外来受診をしている。往診を受けたときは、当日か翌日には家族等に電話連絡して、記録に残している。専門科受診の際は家族等の付添を基本とし、日ごろの様子を家族等に口頭で伝えたり、医師宛に文書を作成することがある。精神科受診は職員が支援。訪問看護による週1回の健康チェックを受け、その情報は医師、職員が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携を結び週1回受けている 個別の受診ノートでその日の体調や今後のケアを共有している 緊急時24時間の連絡体制が確保されている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人の援助方法に関する情報、サマリー等を医療機関に提出 ご家族とも情報交換しながら職員が頻繁に見舞い、その際ご本人の状態を医師・看護師から得ている 退院後スムーズにホームにて生活が出来るよう情報提供書を頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者・ご家族・職員と情報を共有し、協力医療機関の医師や訪問看護ステーションの看護師に相談をし、助言をいただきながら支援に取り組んでいる	看取り介護を行っていることを入居時に説明、希望する家族等が多い。終末期には医師の説明を受けて、家族等と話し合っ方針を決定している。医師は、個人の状況を詳しく説明してくれており、医師、訪問看護と24時間連絡が取れることに加え、近くに住む管理者が深夜でも対応する体制が整っていることは、職員の不安軽減につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会にて、応急手当等の知識を得ている 急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、全職員が落ち着いて対応できるよう努めている 訪問看護ステーションと24時間連絡体制を取っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署指導の下、避難訓練を実施している 夜間を想定した訓練も実施している 地震時も同様、訓練後の反省など職員で話し合い記録に残している	各ユニットの棟が独立しているため、火災に対しては、被災していないユニットへ避難することにしている。避難は段差のない居室の掃出し口を利用してデッキに出る。レトルト食品など備蓄品はリストを作り、管理者宅に備蓄している。停電対策の発電機の用意がある。コロナが落ち着いたら、運営推進会議を利用するなどして避難訓練時に地域の方に声かけをして協力を要請することを考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した介護を心がけ支援している 特に排泄への声かけには十分に配慮しプライドを傷付けないように努めている	利用者の思いに沿った声かけをしている。排泄時には、他者へわからないように耳元で囁くなどの声かけをしている。写真について同意を得ているが、なるべく個人個人の写真を使うように配慮している。面会票は個票にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や嗜好の把握に努め、日常生活の中で表出できるよう取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者本位を追求し、その方の生活リズムや希望に合わせている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいお洒落ができるよう本人の意向を聞きながら、近隣の理容室への支援をしている またなじみの理容師が訪問し、支援してくれている 外出が困難な利用者は訪問美容を利用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員が出来る限り、準備や下膳など一緒にやっている 季節を感じられるよう施設で収穫した食材を取り入れ、下準備を協力していただき、献立を一緒に考え、楽しめるよう支援している ご利用者が苦手なメニューなどある場合は代替食を用意している	冷蔵庫の食材を確認して利用者の希望に沿うような献立を考えて調理している。利用者の要望で刺身など生ものを出したり、正月には餅を小さく切って食べたりしている。おやつには、利用者の目の前でホットケーキやお好み焼き、ゼリーなど手作りすることがある。ドライブスルーでのテイクアウトは利用者に喜ばれた。畑を作り、収穫した旬の夏野菜を堪能した。配膳、テーブル拭きなど利用者もやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量を個別に記録している また個別の食事形態を把握し、刻み食、ペースト食、とろみ食など応じて提供している 苦手な献立等は他の献立に変えて対応している 水分摂取が少ない方にはゼリーにして支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に義歯と自分の歯のケア またスポンジで口腔ケアを実施している 夕食後は義歯をお預かりし、洗浄、消毒を実施		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個別の排泄パターンを把握 声かけ誘導を促し可能な限りトイレでの排泄を行っている	排泄パターンや表情を見ながら、個別にトイレでの排泄を支援している。おむつ使用の方にも、排便時にはトイレでの排泄を支援。便秘には、野菜や水を多くしたり、必要に応じて薬を使用するなどの対策をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を朝昼夜の食事の際と10時15時のおやつの間と摂取量を把握し一人ひとりの好む飲料や野菜の多い食事にて対応し自然排便につながるよう努めている ご利用者の希望により乳製品を召し上げる方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているがご利用者の状態によりシャワー浴や足浴、清拭等にて対応している 個人の希望や状態により、入浴が出来なかったご利用者は隣のユニットとお互いの入浴日に入浴出来るようにしている	週2回、午前入浴を基本とし、車いすを使用している方も浴槽に入れるように支援している。脱衣所にハロゲンヒーターや扇風機を設置し、ヒートショック予防を図っている。洗剤等は上の棚の扉の中に置き、安全に配慮している。足ふきマットも個別に交換している。着替えの準備はできる方は一緒に選んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムを把握し安心して休息、睡眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬のファイルを作成し職員が内容を把握できるようにしている 服薬時には本人に手渡し服用を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯物たたみ、食事の後片付けなど日課としている利用者の力を活かした役割で生活に張り合いがもてるよう支援している ホーム内の畑で果物や野菜を収穫し、加工したり楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望により散歩、買い物、畑仕事など戸外に出掛ける支援をしている またご利用者の希望で墓参りなど、家族の協力を得ながら支援している	散歩に出かけたり、ウッドデッキでお茶を飲んだり、外気に触れられるように支援している。花見の時期には、車の中から花見をして、ドライブスルーを利用してテイクアウトも行った。通院は家族と一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回ヤクルトの訪問販売があり、自分で買うことを楽しみにしているご利用者がいる また管理が困難なご利用者にはご家族より預かり個別に使用を記入し報告している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が掛けたい時はいつでも電話をかけられるよう対応している また家族からかかってくる場合もあるので、時には職員の方から声を掛けて促してみる時もある 携帯電話を持っている方は好きな時間に家族と連絡を取り合っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は南向きになっており、冬は暖かく利用者にとってソファは居心地の良い場所になっている 外出困難な利用者が多くなって来ているので、リビングにひな人形、七夕などを飾り季節や生活を感じていただけよう努めている 夏にはゴーヤなどでグリーンカーテンを作成し直射日光を遮る工夫をしている	リビングは、日差しが差し込んで暖かい。夏は暑くなるが、エアコンが嫌いな方が多く、グリーンカーテンで直射日光を遮るなど、自然の風を大事にしている。お茶を飲んだりするウッドデッキは緩いスロープがついて、車いすでも外に出られるようになっている。洗濯物を畳んだりする畳の間には、段飾りのひな人形が飾られ、季節感を醸している。10時に体操をしたり、午後は編み物や将棋、カラオケなど趣味の時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを置いて、くつろげるよう配置している 食堂脇には小上がりがあり、思い思いにくつろげるよう工夫している デッキにもイスやテーブルを置き、いつでも景色を眺めたり、お茶を飲んだりできるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みの家具やテレビ、または冷蔵庫を置き、花が好きな利用者には植木鉢や生花を飾り思い思いに居心地の良い様に支援している 仏壇の仏花はホーム内で育てている花を飾っている	ホームが用意しているベッド、衣装ケースの他、タンス、仏壇、冷蔵庫などが置かれ、家族の写真やいただいたハガキなどを飾ったり、利用者の思いに沿った部屋作りがされている。自室を箒で掃くなど掃除をする方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・浴室・トイレなどにプレートを掛け混乱のないよう工夫している 移動の妨げになるようなものは置かないようにしている		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 \_\_\_\_\_

作成日 令和 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	防災訓練実施時に、地域の方に参加してもらうことができていない	年1回は、地域の方に参加していただけるようにする	運営推進会議などをおして、訓練の日時や内容を伝え、参加協力を要請する	1 2 ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。